

2024年4月13日土曜日 10:00~11:40 にオンラインで開催された勉強会の概要です。早稲田大学名誉教授の浦田秀次郎様から「増大する中国の脅威と日本の経済安全保障政策」という題目でお話を頂きました。

浦田様は慶應義塾大学経済学部を1973年に卒業された後、スタンフォード大学で修士号と博士号を取得されました。その後、ブルッキングズ研究所の研究員をされ、1981年から1986年にかけて世界銀行でエコノミストをされ、帰国後、早稲田大学や経済産業研究所などで長年にわたり教育と研究に携わってこられました。また、様々な政策立案にも関与され、内閣府経済財政諮問会議、経済産業省、外務省などの各種委員会で座長を務められました。

この勉強会には、浅沼伸爾様、遠藤格様、小久保和代様、小寺清様、片田かおり様、高間徹様、森下洋司様、遠藤様、川口、ほか1名の計11名が参加しました。ご質問事項としては、日本の経済安全保障政策に対する米国での高い評価、経済安全保障に従事する政府組織における人材面の課題（例：対米外国投資委員会 CFIUS は600~700名規模）、総合安全保障という枠組みの中での軍事面が大きくなることへの危惧（外交面での課題）、経済安全保障の概念の変化（生活に必要な物資の確保から中国依存脱却へ）、米国における新産業政策への重要性認識、財政支出（例：半導体産業向け補助金、子育て支援、防衛費など）が膨らむ中での財源確保（何を削減するか）、エコノミストから経済安全保障に転じることになった経緯などがございました。（文責：川口）